

「横地分類 (改訂大島分類)」

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C、B2、D2-U、B5-B、C4-D

＜知能レベル＞						
E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可
＜特記事項＞						
C:有意な眼筋運動なし						
B:盲						
D:難聴						
U:同上肢機能全廃						
＜移動機能レベル＞						
戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可	

7月のゾーン再編成があり、新しい体制での生活がスタートしました。医療的ケアを必要とする利用者（人工呼吸器装着者）が加わりました。利用者のより良い生活を考え、支援していくことが私たちの役割であることを再確認し、日々利用者者と接しています。その中でも、現在行っている活動が本当に良いものとなっているかを考え、実践できるような取り組みんでいます。

すばるの 日常生活紹介

大野 やよい

すばるの入所者22名のうち、横地分類では、A1〜12名、A2〜5名、A3〜1名、B1〜3名、D1〜1名、D6〜1名に分かれます。

A1であるAさんは、職員が耳元で声をかけたり、楽器の音がすると視線が動いたり、声のほうに顔をむけたりと、音を感じているということが表情から分かります。また、抱き上げられたり、手に触れられると口元が緩んだり、ぎゅぐゅと入っていた体の力が抜けたりと、心地良いと感じている様子があります。このようなAさんに抱っこで歌いかけながら体を揺らしたり、手を握り、手遊

びをしています。A1の利用者は、職員との体のふれあい、語りかけ、歌いかけを通じて、自分に向けられた好意を感じます。そのことにより心地良さがあつたり、「おや？なんだろう？」というような、心に動きを持つことが活動につながります。

同じくA1であるBさんは、マラカスや鈴のように振って音の出るものや、太鼓のようにパチで叩いて音が出るものを楽しみます。楽器を手渡すと、音が出るように振り方を変えたりして工夫する様子も見られます。Bさんがパチで叩いて音を出しているところに、職員が一緒に音を出すと、何かを感じるのか叩くのを止めます。職員が同じように音を止めてみるとBさんは、少し期待のような気持ちがあるのか、再び鳴らし始めます。はつきりした期待までは分かりませんが、音の鳴らし合いにBさんの何らかの心の動きを感じました。Bさんのように、その素材を通して、職員の働きかけを、より楽しめる方もいます。素材のどんな要素がいいのか、職員の働きかけのどんなところが楽しみを感じているのかを私達が考え、提

供することが大切です。

B1であるCさんは、日常の中の簡単な言葉の理解があります。Cさんが興味を示しているものは表情から読み取ることができ、時には指差しや発語につながることがあります。Cさんに「きんぎょが にげた」という絵本を提供した時のことです。絵本の中の金魚を見つけたら楽しいのではと思いつけられたら楽しいのではと思いつけました。職員が「Cさん 金魚」「赤いね 魚だね」と言いながら金魚を指差しすると、指差ししているところに視線を向けてくれました。ページをめくり「赤い魚 どこかな?」「金魚はどこかな?」と職員が言いながら、2ページほどめくると視線が金魚に行くようになり、手が動き始め、金魚を指差しました。その後、ページをめくる度に金魚を探している様子が見えました。

障害像に関係なく、日常生活の時間は、楽しく、充実したものでありたいと思います。今ある利用者の理解を基に、「これなら楽しめるであろう」と予測して、良い活動の提供につなげていきたいと思えます。

ひかりの子の 日常生活紹介

松井 紀子

ひかりの子は就学前の幼児を対象とした通所部門で、現在1歳半から6歳までの17名が在籍しています。横地分類の内訳では、A1が大半年で、他はA2、A4、B4、B4-Dの障害像に分けられます。

ひかりの子では、毎日午前の保育時間を日常活動として、紙、ボール、音、絵本の4つの遊びに取り組んでいます。3ヶ月ずつ同じ遊びを続け、表情や身体の動きを見ながらじっくり関わっていきます。

時間をかけて同じ遊びを繰り返すことで、子どもたちは遊

